

男子 81kg 級

準決勝戦第 1 試合

3 平尾 譲一
(パーク 24)

背負投

○ 3 海老 泰博
(旭化成)

本大会出場選手エントリー (113 名) のこの階級の準決勝戦。平尾は 2 回戦で過去優勝 3 回、準優勝 2 回の強豪谷口 (旭化成) を巴投技ありで降す殊勲を上げ、その後も順調に勝ち進む。

対する新人海老は得意の背負投が炸裂、5 回戦では強豪山本 (九州電力) を巴投で下し、オール一本勝で準決勝戦の舞台に登場。

共に左組みの両者、暫しの組手争いの後、釣手を手組みのまま海老が大外刈で平尾を後方に揺さぶった後、釣手を片襟に持ち代えるや否や、低い左背負投で平尾を担ぎ、くるりと前に転がして、34 秒綺麗な一本を奪う。

準決勝戦第 2 試合

4 黒岩 翼
(了徳寺学園)

内股

○ 3 垣田 恭兵
(旭化成)

尻上がりに調子を上げて勝ち進んだ両者は共に左組。

開始早々に垣田は巴投で黒岩を崩し、黒岩が腹ばいになったところを脇に足を絡めて関節を取ろうとするが逃す。両者なかなか組手十分になれないが、次第に垣田が優位に立ち前が出る。

2 分 40 秒、垣田、黒岩の袖口をつかんで十分になるや、低い姿勢から内股で跳ね上げれば黒岩は頭から畳に落ちて背中を着く。垣田が 3 試合連続の一本勝で決勝戦進出を果たす。

▽決勝戦

3 海老 泰博
(旭化成)

(出足払)

⊖ 3 垣田 恭兵
(旭化成)

左組み同士、同じチーム先輩後輩の決勝戦。共に短躯の両者、互いに背負投、袖釣込腰等の担ぎ技で激しく応酬する。垣田に指導 1 が与えられるも引分け延長戦に突入。

序盤では海老が巴投の連発で試合をリードするも、中盤に入り垣田が背負投であわやという攻撃を行って以降は、垣田が試合の主導権を奪う。2 分 1 秒、

海老が右足を踏み出したところを、垣田がこれによく反応し出足払一闪、横転した海老に有効が宣告されて試合終了。

垣田が後輩の海老を下し初優勝を飾る。